平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号）	提案機関名	自然環境保全センター県有林部
407 ※記入不要		

要望問題

しみ材の発生原因解明と防除方法及びしみ材の活用方法の研究開発

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

＜内容＞

県有林清川管理区（札掛）と箱根管理区（仙石原）における立木処分地で、ヒノキに「しみ材」が発生し、売り渡しできなかった事例がある。

断面を見ると、「しみ」は枝部位からスタートしているものが多く見られる。

このようなヒノキ材のしみの発生要因を解明し、防除方法を開発するとともに、スギノアカネトラカミキリの被害材を含めて「しみ材」の活用方法の研究開発を要望する。

解決希望年限	①１年以内　**②２～３年以内**　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	**①研究所対応**　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） **⑨自然環境保全センター**

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター研究部
部　　署：	森林資源グループ
対応区分	①実施 ②実施中 **③継続検討** ④実施済 **⑤調査指導対応** ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名	（①、②、④の場合）

対応の内容等

ヒノキのシミについてはスギノアカネトラカミキリによる被害とは被害形状が異なっており、枝打ち等の二次的原因と推定されるが、この確定は調査指導対応で行える。

また、被害木の分布実態については広域な調査が必要であり、課題化の前に行政との調整が必要と考えられる。

被害材の活用方法については、過去に林務課により調査が実施されているが画期的方法は見いだされておらず、研究課題化は困難と考えられる。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	